

# 自然観察 NOW

No. 8 1

野幌森林公園自然情報

発行：2024年9月7日

北海道ボランティア・レンジャー協議会

ホームページ <https://voluran.com/>

## ガマ

ガマ（蒲、香蒲、学名: *Typha latifolia* L.）は、ガマ科ガマ属の多年草の抽水植物。別名、ミズクサともいい、古くはカマとも呼ばれていました。円柱状の穂は蒲の穂と呼ばれます。

浅い水底の泥の中の根茎から茎が直立する多年草。横に走る地下茎によって群生します。草丈は高さ1-2メートル、水中の泥の中に地下茎をのびします。葉は線形で厚く、下部は鞘状に茎を抱き、葉の断面は三日月形で、内部はスポンジ状です。

花期は夏の6-8月。葉よりも高く茎を伸ばし、頂に円柱形の花穂をつけ、上部は黄色い花粉をまき散らす雄花穂、下部の緑色部は雌花穂であり、雌雄花穂はつながってつきます。穂の上半分の雄花群は細く、長さ7-12cm、開花時には黄色い葯が一面に出る風媒花である。花穂の下部の雌花群は、長さ10-12cm、直径は約6mmです。雄花も雌花も花びらなどはなく、ごく単純な構造になっています。

花が終わると、雄花は散って軸だけが穂の上に立ち、雌花穂は茶褐色になって太さも1.5-2cmと太くなり、ソーセージに形が似たいわゆる「ガマの穂」になります。雌花は結実後は、綿クズのような冠毛を持つ微小な果実になり、この果実は、長い果柄の基部に穂綿となる白い毛がつき、先端の花柱が色づきます。晩秋になると、ガマの穂がほぐれて風によって飛散し、水面に落ちると速やかに種子が実から放出されて水底に沈み、そこで発芽します。また、強い衝撃によって、種子が飛び散ることもあります。

ガマは、葉を編んでむしろや敷物を作ったことから、朝鮮語のカム（材料）に由来するとする説があります。ガマは漢字で「蒲」と書き、水辺に生える草という意味があります。「甫」は田んぼに草が生えている様子を表し、さんずいをつけた「浦」は水辺を表していて、これに草かんむりをつけています。別名で、ミズクサ・ミスクサ・ミスグサ[3]（御簾草）や、キツネノロウソク（狐の蠟燭）とも言われています。

昔から、若葉を食用、花粉を傷薬、葉や茎はむしろや簾の材料として使われてきました。雌花の熟したものは綿状（毛の密生した棒様のブラシ状）になり、これを穂綿と呼び、火打ち石で火を付けていた時代には、穂綿に硝石をまぜてほくちとして用いることがあったとのこと。“ガマの穂”を乾燥させて、蚊取り線香の代用として使われる事もあるそうです。茎、葉は、樽作りで、樽材の隙間に噛ませ、気密性の向上に利用されています。かつてアイヌは茎を編んでゴザにしました。



左がガマの穂 右が雄花

ガマの穂の茶褐色部分は雌花です。ガマの雌花は弾力があってふんわりと膨らんでいるのが特徴です。ガマの穂の上部には細長い棒があり、これがガマの雄花です。

ガマの穂は雄花も雌花も花弁がないのが特徴で、とても花のように見えません。穂状なことからガマの穂と呼ばれています。

皆さんは因幡の白兔と言うお話を知っていますか？ほぼ皆さん知っていますよね。では、知らない人のために。

## いなばのしろうさぎ 因幡の白兔

出雲の国にだいきくさまという神様がいらっしゃいました。その神様はおおぜいの兄弟があり、その中でもいちばん心のやさしい神様でした。兄弟の神様たちは因幡の国に八上比売（やかみひめ）という美しい姫がいるという噂を聞き、みんなで会いに行こうと決められました。だいきくさまは兄弟達の家来のように大きな袋を背負わされ、一番後からついていくことになりました。

兄弟たちが因幡の国の気多の岬を通りかかったとき、体の皮を剥かれて泣いている一匹のうさぎを見つけました。兄弟たちはそのうさぎに意地悪をして、海水を浴びて風にあたるとよいと嘘をつきました。そのうさぎはだまされていることも知らずに、言われるまま海に飛び込み、風当たりのよい丘の上で風に吹かれていました。そうしていると海水が乾いて傷がもっとひどくヒリヒリ痛みだしました。

前よりも苦しくなって泣いているうさぎのところに、後からついてきただいきくさまが通りかかりました。だいきくさまはそのうさぎを見てどうして泣いているのかわけを聞きました。そのうさぎは言いました。わたしは隠岐の島に住んでいたのですが、一度この国に渡ってみたいと思って泳がないでわたる方法を考えていました。するとそこにワニ（サメ）がきたので、わたしは彼らを利用しようと考えました。わたしはワニに自分の仲間とどっちが多いかくらべっこしようと話をもちかけました。ワニたちは私の言うとおりに背中を並べはじめて、私は数を数えるふりをしながら、向こうの岸まで渡っていきました。しかし、もう少しというところで私はうまくだまされたことが嬉しくなって、つい、だましたことをいってしまいワニを怒らせてしまいました。そのしかえしに私はワニに皮を剥かれてしまったのです。

それから、私が痛くて泣いていると先ほどここを通られた神様たちが、私に海に浸かって風で乾かすとよいとおっしゃったのでそうしたら前よりもっと痛くなったのです。だいきくさまはそれを聞いてそのうさぎに言いました。かわいそうに、すぐに真水で体を洗い、それから蒲（がま）の花を摘んできて、その上に寝転ぶといい。そういわれたうさぎは今度は川に浸かり、集めた蒲の花のうえに、静かに寝転びました。そうするとうさぎのからだから毛が生えはじめ、すっかり元のしろうさぎに戻りました。そのあと、ずい分遅れてだいきくさまは因幡の国につかれましたが、八上比売（やかみひめ）が求められたのは、だいきくさまでした。

今急往此水門、以水洗汝身、即取其水門之蒲黄（原文）

この説話における「水門」とは河口のことであり、水で体を洗うのは生理食塩水での洗浄を意味するとの見方、さらに「蒲黄」が薬草として登場するため日本における薬の最初の史籍だとする見方もあります。なお、外傷や火傷に外用薬として用いる漢方薬に、「ホオウ（蒲黄）」というヒメガマ（ガマ科）の成熟花粉を乾燥させて粉末状にした処方が存在し。大国主神は、この説話および『日本書紀』の少彦名命（すくなひこな）と共に病気の治療法を定めたとされるため、医療の神ともされ、さまざまな薬草を使用しています。

参考文献：Wikipedia ウィキペディア。出雲大社ホームページ

文責：小林 英世

### 今後の観察会予定

- ・**秋の森の観察会**：10月3日（木）9:50-12:00 自然ふれあい交流館～エゾユズリハ→志文別→大沢（周回）  
ボラレン共催 自然ふれあい交流館へ事前申込を Tel011-386-5832
- ・**晩秋の森の観察会**：10月19日（土）10:00-12:00 野幌森林公園大沢口駐車場～大沢→エゾユズリハ（周回）  
ボラレン主催 当日直接、大沢口駐車場へ（参加費一般@200-、高校生以下無料）